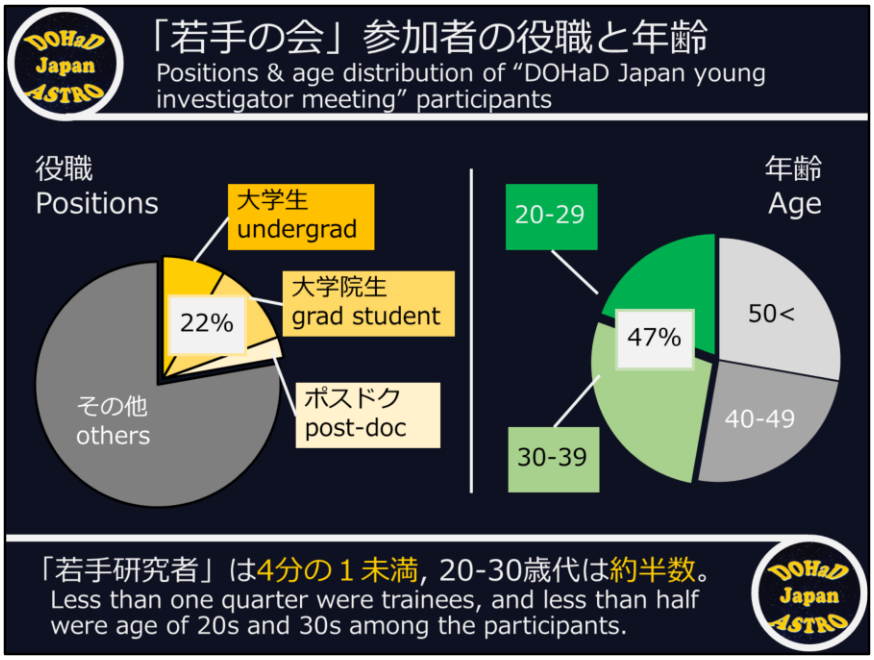
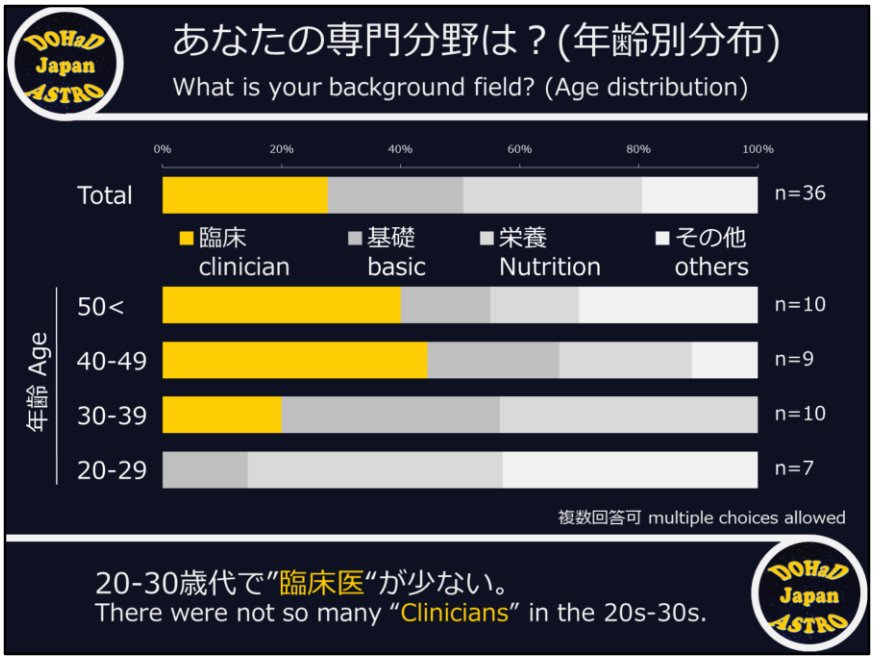
去る2018年8月16日に開催されました第7回日本DOHaD学会学術集会「若手の会」にて
DOHaD JAPAN ASTROが主導となり
参加者を対象に、「DOHaD研究に携わる若手研究者における意識調査アンケート」を行いました。
「若手の会」開始前に参加者にアンケートを配布し、終了時に回収させていただきました。
全体として97%、36名もの方々にご回答いただきました。
この場をお借りして、皆様のご協力に感謝いたします。

アンケート結果を集計・解析する中で、日本DOHaD学会の若手研究者から研究界を盛り上げるために必要なことが見えてきました。
今回は「DOHaD JAPAN若手研究者を支援するための3つの提言」と題して、アンケート結果の一部を紹介いたします。

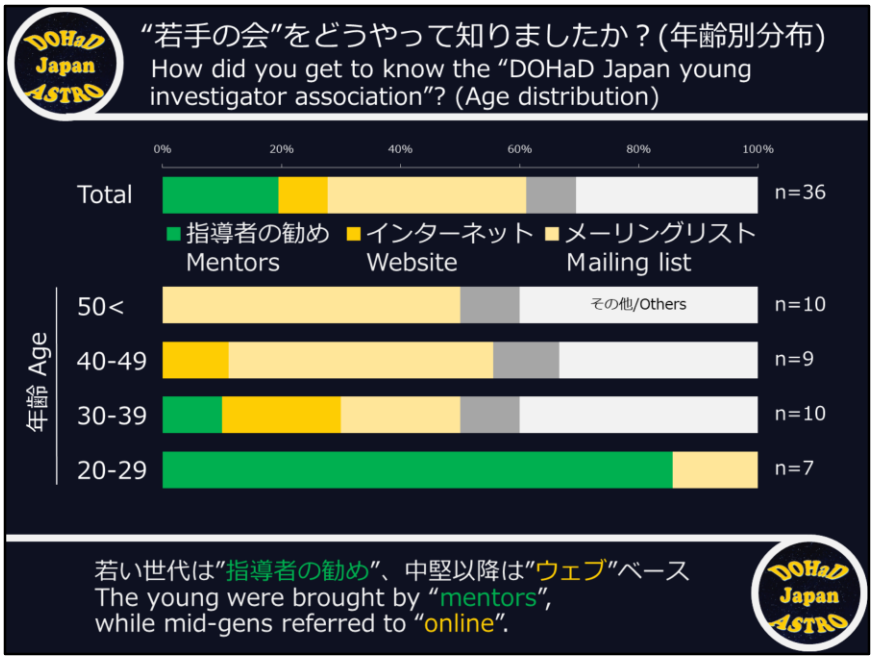


「若手の会」参加者の基礎特性として、役職と年齢についてお示しいたします。

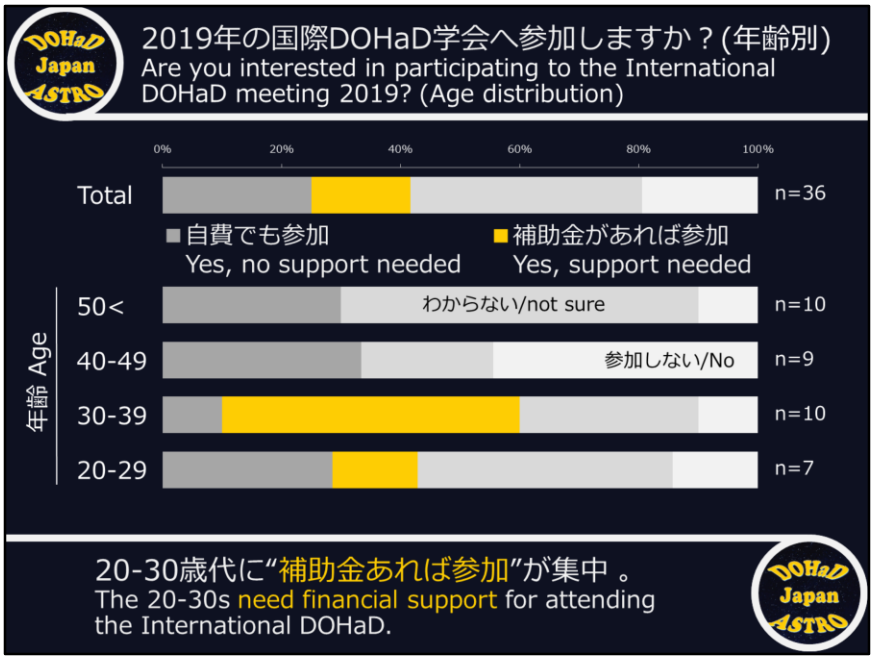
International DOHaD Affiliated Society Traineeでは、大学生・大学院生・ポスドクを"Trainee"と定義しておりますが、
「若手の会」の参加者におけるTraineeの割合は1/4を切っています。
年齢分布についても、20—39歳は全体の約半数未満であり、若手研究者の参加者を増やすことは重要な課題と言えます。



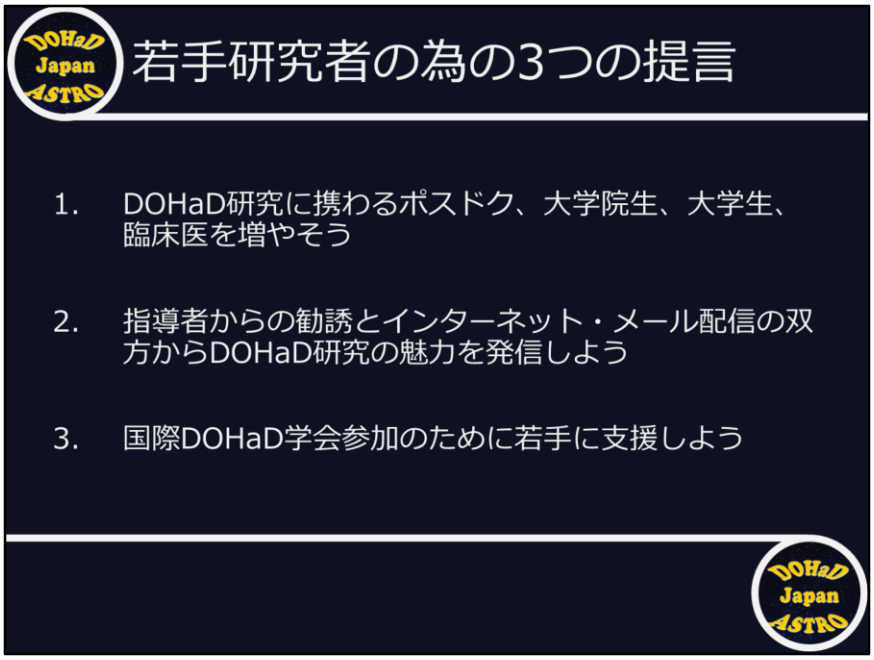
日本DOHaD学会の若手の会に参加していた方々の研究背景を知るために、専門分野について質問しました。
全体でみると、栄養学、基礎研究、臨床医がおよそ同程度の割合でした。
年代別に分けて解析すると、臨床医は、20歳代にはおらず、30歳代でも他の分野に比べ低い割合でした。
元々医学部は6年生である上に、卒後2年間の初期研修制度があるために、20—30歳代で研究に携わるのは難しい、という現実を反映しているものと思われます。
一方で、医学生、初期研修および専攻医の早期の段階であっても、研究に関する勉強会などに出席することは、DOHaDの概念を臨床医に普及させる上では重要なことと考えられます。
若い臨床医や医学生に向けた情報発信や勧誘が重要であると考えます。



若手の会に参加した経緯を知るために、若手の会の情報をどうやって得たのかを質問しました。
全体としては、メーリングリストが最も多くを占めていました。
年齢別に区切ってみると、20歳代では"指導者の勧め"がほとんどでした。
指導者が積極的に若手を参加させていることが伺われます。
若手研究者により参加していただくために、今後も引き続き、指導者先生方に積極的に若手を連れてきていただくことが重要であると考えます。
30歳以上ではメーリングリストやインターネットが主な情報入手元となっていることが示唆されます。
DOHaD研究をインターネットやメール配信を通じて情報を発信していくことが重要であると考えられます。



2019年オーストラリア、メルボルンで開催される国際DOHaDへの参加意欲について質問しました。
”自費でも参加”、“補助金があれば参加”合わせて全体の半分程度となりました。
年齢別に区切ってみると、“補助金があれば参加”は20歳代と30歳代に集中していました。
国際学会への若手研究者の参加人数を増やすために、Travel awardなどの参加助成が必要であると考えられます。



これらの結果を踏まえ、3つの提言をさせていただきます。
まずは、
1. 若手研究者を増やせるよう努力します。
特に、ポスドク・大学院生・大学生・臨床医を増やすことに注力いたします。

2. 指導者からの勧誘と、インターネット・メールなどを通じ、
積極的にDOHaD研究の情報を配信して参ります。

3. 国際DOHAD学会参加のために、若手に支援を　検討する必要があります。

今後、これらの提言をもとに、DOHaD JAPAN ASTROは活動を行って参る所存であります。
ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。